

ずいそう



私とゴルフ

葛谷 政勝

私がゴルフを始めるきっかけは、高校2年の頃、父が友人3人とゴルフ練習場を開業したのが、始まりです。そんな家庭の環境もあり大学では、体育会ゴルフ部に所属させていただきました。私は下宿生活でしたので毎晩先輩が勤めてみえる練習場へ玉運びや球拾い（その頃の練習場はすべて手作業）に行き、その代償として無料で球を打たせていただきました。毎週日曜日にはゴルフ場のキャディー（手押し4バック）をやらせていただきこれも無料でゴルフコースを回らせていただきました。ゴルフ部というとオボッチャマの遊びのように言われますが、髪の毛は2年まで坊主頭ですし、お金もクラブを買う以外はかからなかったように思います。

その後、大学はぎりぎりの単位で卒業、今の会社に入社しました。ゴルフは、続けていましたが、大学の頃に比べるとほんのわずかな回数になってしまいましたが、そのぶん真剣に取り組むようになり、卒業後数年でシングルになれました。

その後hcpも上がり6にまで成りなんとか片手シングル(0~5)になるように思っていたそんな頃ちょっと風邪をこじらせ熱が1週間ほどつづいたと思います。生まれてこの方病気などというものにかかったことのなかった私は、あ、風邪かという程度に思っていました。

その後、熱も治まり通常の勤務に戻ったのですがなにか左足のつま先がピリピリと痺れるのです。私は根っからの楽道家ですから、まあそのうちにほかっておけば直るだろうとおもいそのままにしておきました。しかし1ヶ月ほどたったら今度は右足のつま先まで痺れてきました。友人に相談したらそれは、糖尿病にちがいないから、すぐに血液検査を受けろといわれ早速近所の町医者へ行き検査をしたところ異常なし。しかし自分の感覚としては、そのピリピリ感がだんだん膝の方まで上がってきたような感じがしてきました。歩くのも何か変な感じになってきました。そうするとこんどは、三半規管が、おかしいから耳鼻科へ行って診てもらえと言うので診察をしてもらいましたが、異常はありません。

しかし今度は、指の先がピリピリしてきました。それで、総合病院へ行き脳に腫瘍でもできているんじゃないかとCT・MRIで検査、また異常なし。様子を見てくれということになりました。

しかし、1箇所の病院では、結果は分からないのでもう一度ほかの病院にかかってみることにしました。またCT・MRI検査をしましたが異常なし。そこでその医者がもう一度症状を説明しろと言うことになりその症状なら、一回髄液を取って調べてみようということになりルンパールという検査を行いました。その結果やっと病気が判明し病名はCIDP（慢性炎症性多発

性神経炎)と言う聞いたこともない病名に驚きました。初期に発見されれば、1~2週間で完治するが慢性化すると、完治するかどうかもわからないということでした。どの病院が一番いいかと聞いたところ東京の虎ノ門病院ということで紹介状を書いていただき診察へ行ってみるとすぐに入院ということとなり、そこから私の闘病生活が始まりました。

入院して2週間は検査ばかり。それも土日は当然休み。入院するとちよっと骨休みができるなどという考えは1週間もするとふっとんでしまい、早く検査がすんで治療にかかってもらいとにかく退院したいという気持ちでいっぱいになりました。しかしわたしの気持ちとは裏腹に3週間目には足の神経を取って検査をするということで手術をする事になってしまいました。そのせいでまた2週間動きがとれなくなってしまい入院1ヶ月は、なにも治療もなく検査だけで済んでしまいました。やっと治療の方針が決まりその説明を聞くと、

1. 副腎皮質ホルモンの投薬
2. 副腎皮質ホルモンの大量投与によるリバウンド療法
3. 免疫吸着機による免疫吸着
4. 人免疫グロブリンの投薬

以上の療法を随時行っていくということになりました。

私の気持ちは1クールもすればすぐ良くなるだろうと思っていたのですがまったく良くなりず2クール目へと。しかし結果は同じです。その頃になると薬の副作用で顔がムーンフェイスになり病気のせいで手の握力は握力計で10に。これは大体80才ぐらの数値です。また歩行も手すりを捕まえて歩くか車椅子という状態になってしまいました。

そして3クール目。もう入院して4ヶ月目に入っていたのですがやっと髄液検査の結果数値が下がり始めました。そしてやっと5ヶ月目に退院へ。整形外科でのリハビリが始まりました。毎日杖をつきながら病院へと通い半年ほどたった頃、歩行補助具を付けると言われ足の形を取り制作していただきました。そのおかげで杖からは解放されましたが自分が道具に頼っている気がして何か不安も募ってきました。そんなある日、父が気分転換にゴルフ練習場でも行こうじゃないかと言うので一緒にいきました。まず短いクラブから振ってみようと思いピッチングを振ってみると球と一緒にクラブまで飛んで行ってしまう始末。やはりゴルフはもう無理かとあきらめリハビリに励みました。その後1年が過ぎ、また数値が上がり再入院、約1ヶ月後にまた退院。

その後リハビリで握力は何とか人並みにまでは戻ってきました。しかし脚力の方はなかなか人並みまでは戻りません。握力が戻ったので練習場でクラブを飛ばす事もなくなったのでリハビリをかねてゴルフの練習場へ通いだしました。おかげで以前のような飛距離はありませんが何とかカートでならコースを回ることが出来るようになりました。ちょうどその頃アメリカで足に傷害のあるプロがトーナメントにカートに乗って参加できることになり、私が所属しているゴルフクラブも理事会を開いていただき特例でカートでの試合出場が可能になりました。仕事の合間を見てゴルフの練習をしたりコースへ行ったりできる自分は本当に幸せだと感じています。皆さんも体が動くのは当たり前と思ってみえるでしょうがそうではないのです。一つバランスを崩すとあっという間に体は、言うことを聞いてくれなくなります。

風邪だと思い病気を馬鹿にしないよう、風邪は万病の元と言います。みなさんも体に気をつけられて楽しい生活を送ってください!!